

東京女子医科大学病院 薬剤部

薬剤師レジデント制度



Why Should I
Do a **Residency?**



米国BPS HPより



東京女子医科大学病院

Established in 1908

病床数;1,389ベッド 外来患者 3,200 人/日

心臓病センター、消化器病センター、脳神経センター、
腎臓病総合医療センター、糖尿病センター他



進めるべき薬剤部業務の体制

- **業務の透明化**・分析を図り、各薬剤師が薬剤業務全般にわたる業務内容・業務量を理解し、それぞれの部署の業務を相互に円滑化できること
- **業務の単純化**・**標準化**を図り、確認体制は複雑化せず、責任意識の向上とシステム化を図る
- 薬剤師以外で出来る業務は、**機械化**や薬剤師以外のスタッフへの分担を進める
- 電子カルテ・バーコード等のデジタル情報を基礎として、**IT**を活用した業務の効率化と正確性の向上を図る

シームレス環境

業務の標準化

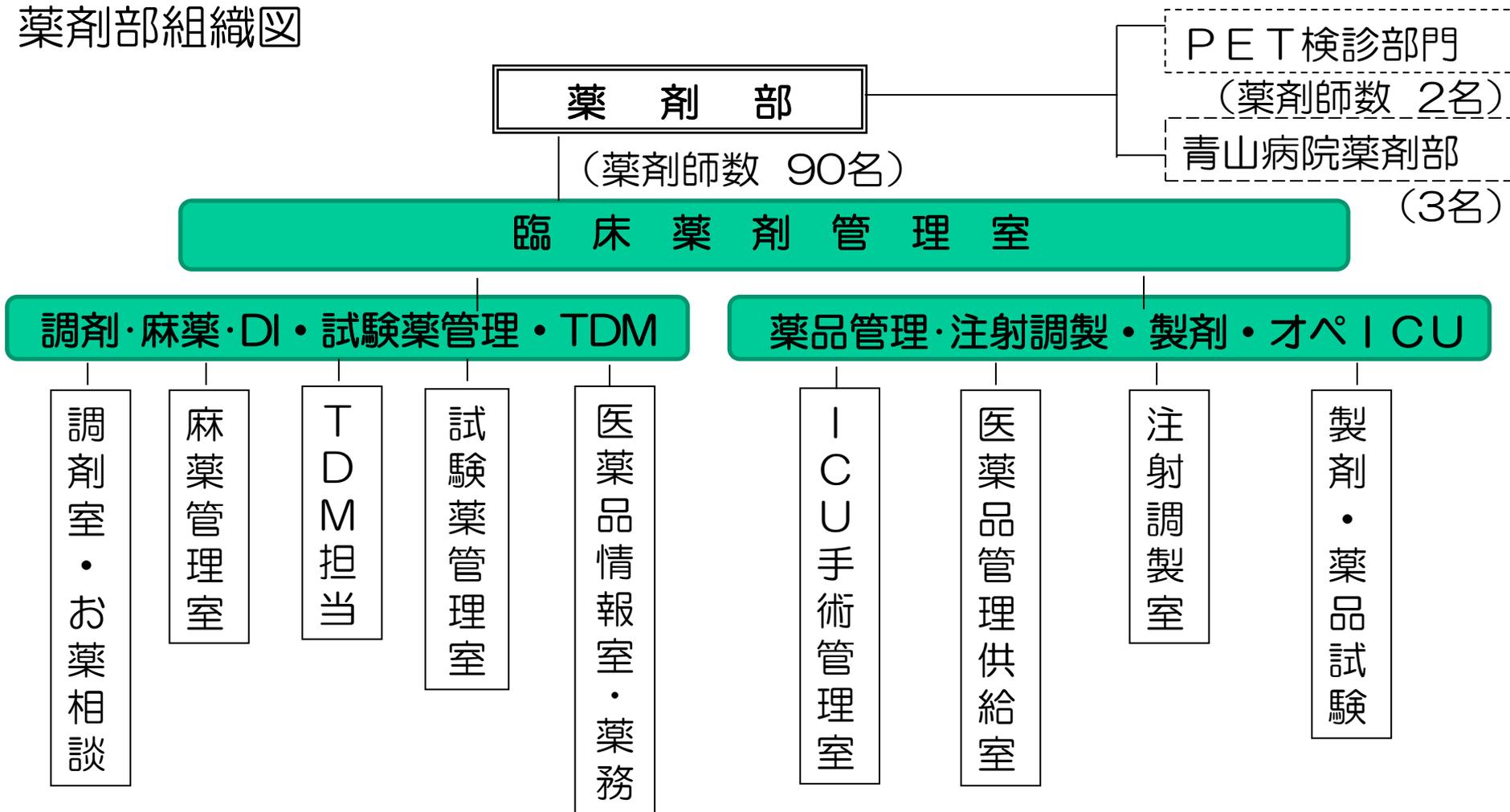
マネジメント

IT化

薬剤部基本方針

- ◎ 医薬品適正使用の推進
- ◎ 医薬品の安全管理（患者・医療スタッフ）
- ◎ 患者サービスの向上

薬剤部組織図





薬剤部の組織体制

標準化

シームレス
な組織作り

部長[1]

副部長[1]

業務の標準化

臨床薬剤業務

院内横断的チーム医療

- がん専門領域チーム
- 緩和ケア専門領域チーム
- 糖尿病専門領域チーム
- NST専門領域チーム
- 感染制御専門領域チーム
- 褥瘡専門領域チーム
- 妊婦授乳婦専門領域チーム
- 神経精神科専門領域チーム

薬剤師[90]

グループA [6+7]

グループB [6+7]

グループC [6+7]

グループD [6+6]

グループE [6+6]

グループF [6+6]

グループG [7+6]

中央業務

一般職[17.5]

調剤業務 [5]

TDMマシナリ

試験薬管理

麻薬管理・UNIT

薬務・DI [2.5]

注射供給・調製[9]

製剤/試験 [1]

抗がん剤調製

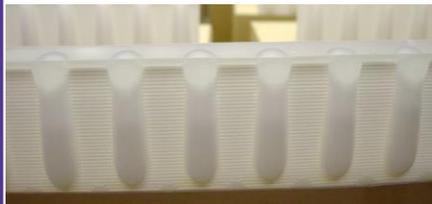
手術・UNIT

全ての入院患者に提供すべきファーマシューティカルケア

- ①入院後、当日における患者の薬物治療に関するヒアリングと薬学的管理に基づいた医師への提案
- ②処方オーダーの発行前確認の徹底
- ③患者回診・カンファレンスへの参加
- ④患者への医薬品情報提供と指導・教育
- ⑤ハイリスク医薬品に対する患者指導の徹底
- ⑥患者の副作用に伴うフィジカルアセスメント
(バイタルサイン、X線画像・心電図読解などの評価)
- ⑦抗菌薬管理 (Antimicrobial Stewardship) と感染制御
- ⑧薬物動態学的評価とモニタリング、投与設計
- ⑨TPN・電解質の評価とオーダー変更
- ⑩他職種とのチーム医療における患者指導

薬剤部の中央業務

特殊製剤調製



TPN・抗がん剤の無菌調製



錠剤の自動調剤機



水剤の自動調剤機



散剤の調剤→自動化

チーム医療と専門性

- チーム医療 1**
- HIV対応報告
 - 褥瘡対策室
 - NST
 - 消化器NST
 - クリニカルパス
 - ICT業務
 - がんセンター業務

チーム医療 2（患者集団指導）

- サイコエデュケーション
 - ・ 毎月第2、3火曜日 13時30分～
 - ・ 対象患者：統合失調症
 - ・ 教育内容：薬と上手に付き合う方法
- 糖尿病教室
 - ・ 毎週金曜日 16時～17時
- がんサロン
 - ・ 外来指導 年6回



主な専門領域資格取得状況（平成27年3月1日現在）

がん指導薬剤師：1名、がん専門薬剤師：5名、がん薬物療法認定薬剤師：4名

緩和薬物療法認定薬剤師：4名、精神科薬物療法認定薬剤師：3名

糖尿等療養指導士：7名、NST専門療養士：4名

感染制御専門薬剤師：1名、感染制御認定薬剤師：2名、抗菌化学療法認定薬剤師：6名

臨床薬理学会指導薬剤師：1名、臨床薬理学会認定薬剤師：2名

医療薬学会指導薬剤師：2名、医療薬学会認定薬剤師：2名



大学病院でベーシックスキルを 身につけるキャリアパス

平成29年度

東京女子医科大学病院 薬剤部

薬剤師レジデント制度案内

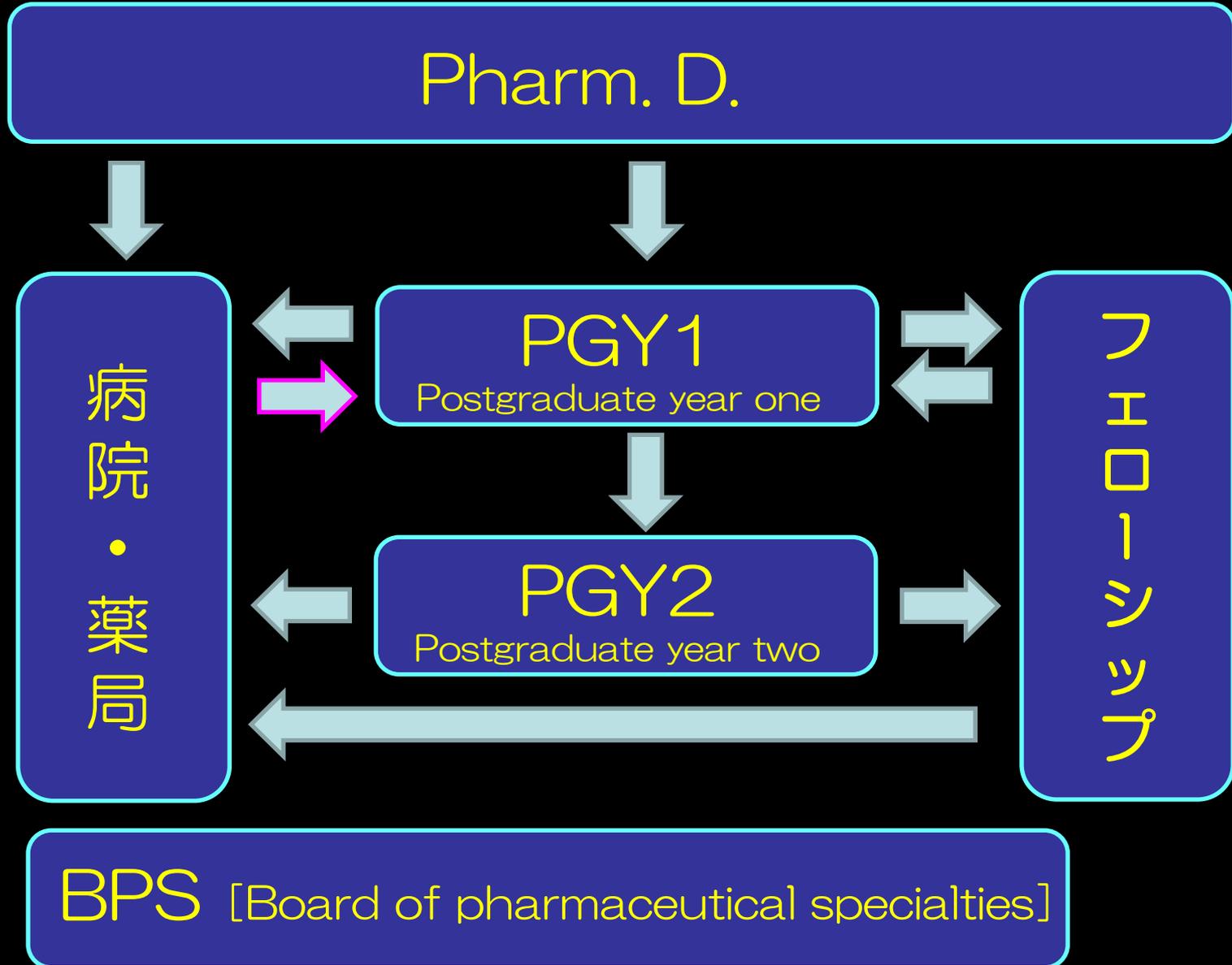


Why Should I
Do a **Residency?**



米国BPS HPより

Pharm.D.取得取得後の進路



レジデント制度導入の背景や目的

- 薬剤師には医師のような臨床研修が義務化されていない
- 薬物治療の包括的介入ができる薬剤師を育成する卒後研修プログラムが必要

ニーズを解消できるシステムがレジデント制度である

卒後臨床研修プログラムの充実による人材育成、
医療安全の向上と経済効果の改善を目的に
2013年4月から基本3年のレジデント制度を導入



病院薬剤師レジデント制度について

日本病院薬剤師会学術第6小委員会 <http://mss.usindia.com/anket/top.html>

トップページ レジデント募集病院マップ 病院薬局協議会記録 ブロック別一覧

薬剤師レジデント募集医療機関MAP

MAPにピンが立っているところがレジデント募集を行っている医療機関です。「詳細へ」をクリックすると募集要項の概要がご覧になれます。さらに詳しい内容については掲載されている医療機関の連絡先にお問い合わせください。濃い緑の病院は2013年度のレジデント募集情報をアップしています。

登録病院数：35病院

**2014年度
登録病院数：39病院**

- 筑波大学附属病院
- 群馬大学医学部附属病院
- 藤沢湘南台病院
- 北里大学北里研究所病院
- 国立成育医療研究センター
- 独立行政法人国立国際医療研究センター病院
- 昭和大学病院
- 東京女子医科大学病院
- 金沢市立病院
- 静岡県立総合病院
- 名古屋大学医学部附属病院
- 京都大学医学部附属病院
- 兵庫県立尼崎病院
- 兵庫県立淡路病院
- 兵庫県立姫路循環器病センター
- 兵庫医科大学病院
- 兵庫県立がんセンター
- 兵庫県立柏原病院
- 神戸市立医療センター中央市民病院
- 兵庫県立加古川医療センター



特徴

東京女子医科大学病院は入院患者数、外来患者数ともに日本で最も多い施設であり、年間約200件の腎移植を行う腎臓病総合医療センターや数少ない心臓移植チーム、早稲田大学による医工融合研究教育拠点であるTWIns（ツインズ）などを有する高度医療機関です。その環境を活かした質の高いジェネラリスト育成を背景に、レジデントプログラムを構成しています。

◆ **1. 日本医療薬学会 認定薬剤師制度研施設**（第11-06-007号）

種々の認定制度に必要な受験資格の終了証を発行することが出来ます。

◆ **2. がん専門薬剤師認定資格の取得**（希望者）

一般社団法人日本医療薬学会がん専門薬剤師認定制度の規程により、がん専門薬剤師の認定資格には、がん専門薬剤師研修施設における研修修了証明書が必要です。当院において規定の行程を終了された方には「**研修修了証明書**」を発行いたします。

東京女子医科大学病院 がん医療薬学研究会への参加

- ◆ 第2金曜日 18時30分～20時30分 年11回開催（8月は除く）
- ◆ がん専門薬剤師、指導薬剤師、緩和医療薬物療法認定薬剤師の育成
 - (ア)がん専門薬剤師育成カリキュラムに沿った講義の開催
 - (イ)緩和医療薬学会および研修センター認定講習会への登録
 - (ウ)がん領域における研究の推進

特徴

◆ 3. 東京女子医科大学 医療人統合教育学習センターを活用した教育

医療人統合教育学習センターは、本学の将来ビジョンの具現化を目指す人材育成の拠点として機能すべく、先進的・全人的かつ安全な医学医療の発展と本学における高度な医療技術・技能の習熟および最新の医学知識・医療情報の共有化と相互理解を基盤とした教育学習を促進する目的で開設しました。 (<http://www.twmu.ac.jp/ECIM/index.html>)



- ① スキルラボを活用したフィジカルアセスメント研修研修風景
- ② ICLS (Immediate Cardiac Life Support) 講習会の受講など
写真) 平成23年3月に実施された薬剤部職員のフィジカルアセスメント

特徴

◆ 4. 部内の豊富な専門領域勉強会への参加

- ・がん医療薬学研究会・糖尿病領域勉強会・精神科領域勉強会
- ・感染制御領域勉強会・妊婦・授乳婦領域勉強会

◆ 5. 東京女子医科大学病院 卒後臨床研修センター基本セミナー参加

(研修医を対象したセミナーへの参加が可能です)

【日時】第2土曜日 14:00~15:00、15:00~16:00 (8月、12月は除く)

1-1) 気管挿管について、1-2) 糖尿病診療の基本、当院における糖尿病治療の実際、
2-1) 外科の術前術後管理、2-2) 放射線治療の基本的な考え方、3-1) 輸液の基本的な考え方と実践的な使い方、3-2) 肝炎の診断と治療、4-1) せん妄の診断とマネージメント、4-2) 冠動脈疾患への対処、5-1) 頸部腫脹・耳鼻科の救急処置、5-2) 不明熱、6-1) 脳卒中の診断と治療、6-2) 血液疾患の診断、6-3) 未来をみつめる泌尿器科、7-1) 創傷の診断と縫合術、7-2) 女性の急性腹症-見のがしたくない婦人科疾患、8-1) 日常診療に潜むホルモンの病気のみつけ方、8-2) 全身疾患に合併する眼科疾患と目の救急疾患について、9-1) 小児の発熱、小児のけいれん、9-2) 皮膚真菌症の基本

特徴

- ◆ 6. 薬剤部の研究業務体制 (Clinical Pharmacometrics研究会への参加)
 - ◆ English Classで医学英論文を読む
〔月1~2回、木曜日 19:15 -20:30〕
 - ◆ 医学統計を学ぶ
- ◆ 7. 学外研修
 - 国内他施設研修(1年目:2日)
 - 海外研修(2~3年目:約2週間 例:アイオワ大学病院↓)



レジデントプログラムの概要

- 独り立ちできるジェネラリストの育成 -

◆1年次：中央業務+（※初期研修プログラム）

◆2年次：臨床業務+中央業務+初期研修プログラム

◆3年次：臨床業務+研究活動+中央業務・・・など

1年次の中央業務；約10カ月（調剤・注射供給/調製）

2年次の臨床業務；内科系4ヶ月、外科系4ヶ月、腫瘍系4ヶ月

- 【募集人数】 若干名
- 【勤務体制】 平日 9：00～17：20（休憩60分）
土曜日 9：00～13：00（第3土曜日は休診のため休み）
- 【業務内容】 一般調剤、注射調製、医薬品情報、臨床薬剤、製剤、TDM他
- 【休日】 毎週日曜日・第3土曜日（全員）
夏季休暇：5日程度、有給休暇有り（入職後6カ月以降発生）
- 【給与】 時給制1,500円（月額基本給：234,000円、1週39時間をベース）
所定外（時間外等）：25%加算、深夜時間外：50%加算
- 【交通費】 全額支給（定期利用も含め最も安価な経路で一ヶ月55,000円迄）
- 【手当 他】 保険加入有、住宅手当・賞与無し、扶養手当無し、日直・宿直有り
- 【研修・雇用期間】 基礎的なレジデントプログラム履修3年（最大5年未満の契約更新）

1年次(PGY1)

- 薬剤師の基本的業務である、処方せんの調剤・鑑査・疑義照会、無菌的混合調製、製剤業務、医薬品管理業務および医薬品情報などの**中央業務の研修**を行う
- また**初期研修プログラム**として、薬剤師職員によるレジデント講義、初期研修医の卒後臨床研修センター基本セミナー、専門領域別院内勉強会などへの参加を通して臨床薬剤師に必要な薬物療法の知識やチーム医療について学ぶ

初期研修プログラム(1年次)

1. 薬剤部内レジデント講義(概論)(薬物治療)
2. 卒後教育研修センター基本セミナー
3. 医療薬学会がん専門薬剤師専門コアカリキュラムの一環である、がん医療薬学研究会主催の勉強会へ参加、がん専門薬剤師に必要な技術の習得
4. フィジカルアセスメント研修
ICLS(Immediate Cardiac Life Support)講習会
5. 語学研修 English Class
6. 領域別院内勉強会
(救命救急・ICU、感染、褥瘡・輸液、糖尿病、精神、妊婦、漢方)
7. Clinical Pharmacometrics研究会
8. その他、院内で開催される各種講習会



具体的な研修内容

教育講義（概論）	教育講義（薬物治療）
医薬品安全管理	呼吸器疾患
治験審査委員会と倫理委員会	妊婦・授乳婦
麻薬管理	脳神経疾患
服薬指導と心理教育	消化管疾患
医薬品情報	腎臓内科
院内製剤	肝臓疾患
臨床薬剤管理	眼科疾患
TDM	精神疾患
外来化学療法	血液疾患
NST	循環器内科
緩和ケア	糖尿病疾患
在宅医療	ICU管理
院内感染対策とICT	小児
院外処方箋の発行と薬薬連携	救命救急
——など	——など

2年次 (PGY2)

- 臨床薬剤師に必要な薬物療法における高度な薬学的知識・臨床知識・専門的技術を習得することを目的に、4カ月を1クールとし、最低3診療科以上の**臨床薬剤管理指導業務**を経験する
 - 診療科分類から、内科・外科より各1診療科を必修とし3診療科以上を研修する(化学療法を研修できる診療科を含むこと)
 - 原則、小児科・ユニットはローテーションには組まないこととするが、第Ⅲ期以降にいずれか希望する病棟を1週間程度、指導薬剤師とともに研修する
- 半日相当は**中央業務**に従事し、薬剤師の基本的技術の理解を深めるとともに、薬学生やPGY1の指導にあたることで、**薬剤師教育**に携わる

臨床業務の研修項目

1. 業務終了時の指導薬剤師との振り返り
2. 指導薬剤師による患者面談への同行、カルテ記載の確認
3. 口頭試問・筆記テストの実施
4. 代表的疾患に関する症例レポートの提出：1クール2症例以上
5. 症例検討会でのプレゼンテーション：1クールに1回
6. 文献抄読レポートの提出：1クールに1報以上
7. 臨床研修到達目標自己評価表および指導責任薬剤師評価シート
の提出



3年次 (PGY3)

- ・チーム医療の一員として、**担当診療科の患者のファーマシューティカルケア**を実践するとともに、**医療の発展と患者への貢献のために研究活動**を行う。

【中央業務】

配属された臨床業務グループの担当する中央業務を行う。

調剤業務、医薬品管理室業務ほか

【臨床業務】

年間を通じて一診療科(希望する場合はユニット、神経精神科を含む)を担当する。とくに評価項目は設定しない。



研究活動

- 担当する診療科・病棟に関連するテーマについて、指導責任薬剤師の指導のもと、診療科と共同で研究活動を行う
- 修了にあたっては以下の項目を必須とする
 1. 研究計画の立案（仮説の生成、研究デザイン、プロトコル作成）
 2. 研究倫理に則り研究を実施できる
 3. 研究成果を論文執筆または学会発表にて公表できる



指導体制

- レジデントプログラムは部内のワーキンググループ（WG）のスタッフ8人が担当し、プログラムの構築からレジデントのケアまでのすべての管理、進行に携わる
- レジデントの学習や生活面のサポート体制としてプリセプター制度を導入
- 1年目のレジデントには2年目のレジデントを配置し、2年目のレジデントには3～4年目の薬剤師を配置した上で、WGの担当者が統括
- 職員全員のスキル確認にe-ラーニング制度を導入しているため、レジデント制度にも適応する予定



プリセプターシップについて

- 本プログラムにおけるプリセプターシップとは薬剤師レジデントに対して先輩薬剤師(プリセプター)がペアを組み、社会人・薬剤師の先輩として、レジデントの生活面・仕事面・精神面の指導と支援を行う制度とする
- レジデントのモチベーションの維持・向上の他、プリセプター自身の薬剤師としての資質の向上や指導者としての技能習得も目的とする
- 原則PGY1のプリセプターは先輩薬剤師であるPGY2とする。またPGY2のプリセプターは薬剤師歴3-4年目の若手薬剤師とする:1-2週間に一度は面談を行う
- 各レジデントとプリセプターのペアには、別途レジデントワーキングの薬剤師(薬剤師歴5年以上)を担当者として割り当て、プログラムの進行のフォローにあたる

レジデントの出身大学

2013年度

- 北里大学
- 昭和大学
- 昭和薬科大学
- 東京大学
- 東京薬科大学
- 東邦大学
- 明治薬科大学

2014年度

- 昭和薬科大学
- 日本大学
- 星薬科大学

- 東邦大学
- 徳島文理大学
- 星薬科大学

2015年度

- 北里大学
- 京都薬科大学
- 慶応義塾大学
- 静岡県立大学
- 昭和大学
- 東京理科大学

2016年度

- 東京理科大学
- 昭和大学
- 静岡県立大学

- 東邦大学
- 北里大学
- 慶応義塾大学

- 日本大学
- 同志社女子大学

